



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 97

May 2025

目 次

○諸報告

2025 年度日本植物分類学会第 24 回大会 (高知) の報告	2
2025 年度大会発表賞の報告	4
2025 年度大会発表賞受賞者喜びの声	5
2025 年度総会議事抄録	8
2025 年度事業計画および予算	9

○お知らせ

2025 年度日本植物分類学会野外研修会 のお知らせ	9
日本植物分類学会 第 25 回大会 (熊本) のお知らせ	10
環境省第 5 次レッドリスト・レッドデータブック (植物・菌類) が公表されました	10

○会員消息

12

諸報告

2025 年度日本植物分類学会第 24 回大会（高知）の報告

第 24 回大会実行委員長 藤川和美（高知県立牧野植物園）
実行副委員長 片桐知之（高知大学）

1) 概要

日本植物分類学会第 24 回大会が 2025 年 3 月 7 日（金）から 10 日（月）までの日程で、高知市にある高知大学朝倉キャンパスにて開催されました。参加総数（公開シンポジウムのみの参加を除く）は 247 名で内訳は一般 153 名（うち当日参加 15 名）、学生 94 名（同 7 名）でした。研究発表では、46 題の口頭発表と、89 題のポスター発表がありました。そのうち、口頭発表 24 題、ポスター発表 41 題が、大会発表賞の審査対象となりました。3 月 8 日（土）に開催した公開シンポジウム「みんなで調べる地域の植物 植物誌編纂を目指して」では、地域植物誌を精力的に進め、編纂の主軸を担った田中徳久氏、須山知香氏、上野雄規氏、鴻上泰氏にご講演いただき、約 120 名の方々にご参加いただきました。シンポジウムには地元新聞社の取材もあり翌日の社会面に取り上げていただき、高知県の人々に植物分類学会の活動を知っていただく機会になりました。3 月 9 日（日）にはランチョンセミナー「標本室の今とこれから」を開催し、高野温子氏、Diego Tavares Vasques 氏、黒沢高秀氏に分類学と親和性の高い話題である標本室の現状と課題をお話しいただきました。ご講演いただいた皆さまには、心よりお礼申し上げます。3 月 9 日（日）夜には土佐御苑にて懇親会を開催し、186 名（一般 115 名、学生 71 名）にご参加いただきました。会期中に開催された高知大学植物標本庫（KOCH）の公開には、10 名に見学いただき、3 月 7 日（金）および 11 日（火）の牧野植物園無料開園には、61 名の方に来園いただきました。



活発な議論がおこなわれた口頭発表会場



懇親会での永益日本植物分類学会会長によるご挨拶

2) 収支

第 24 回大会の収支は、以下の通りです。大会および公開シンポジウムについては、高知県立牧野植物園と高知大学に共催を認めていただき、会場を高知大学にお借りし、さまざまな点で便宜を図ってもらうことができました。また、スタッフは牧野植物園の職員で運営できることで、アルバイト費を抑えることができました。さらに、高知県では、県内へのコンベンション誘致を促進することを目的に助成金制度を設けており、県外から 200 名を超える申し込みがあったことで、高知県観光コンベンション協会より、本大会に対して合計 581,000 円のコンベンション助成金を受けることができました。昨年の仙台大会に続き、寄付金を募り、34 名の皆さまからご寄付と、会場に設置した胴乱募金箱にも寄付をいただき、合計 67,563 円のご支援をいただきました。ご支援をいただきました皆さまには、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。そのほか、本大会ではポスター発表用のポスターを従来のポードパネルではなく、段ボールパネルを利用することで、設置費用と借用料を節約することができました。また、当日参加者数も予測を上回ったため、約 149,368 円の黒字となりました。結果として、学会からの大会補助金 100,000 円を使用せず、大会を運営することができました。従いまして、本大会における学会補助金分と残高 49,368 円を次年度分とし、前回までの繰越金と併せ 510,380 円を繰越金といたしました。

第 24 回大会収支決算報告概要（単位：円）

収入	支出
参加費	994,500
懇親会費	1,157,200
弁当代	112,200
要旨集販売	21,000
高知県観光コンベンション協会助成	581,000
寄付	67,563
学会助成	100,000
総計	3,394,475
会場費	282,483
印刷費	349,250
消耗品費	213,778
通信費	29,048
賃金	30,975
旅費	42,600
交通費	11,900
懇親会費	1,593,116
弁当代	116,400
茶菓費	25,400
賃借料	30,000
委託料	153,670
手数料	1,155
保険料	4,320
総計	3,394,475
緑越金	510,380

3) 大会組織と会場

第 24 回大会実行委員会は、高知県立牧野植物園研究員（藤川和美、前田綾子、瀬尾明弘、堀清鷹）および高知大学教員（片桐知之）、大会会長は、牧野植物園園長（川原信夫）で組織しました。会場設営、大会準備および期間中の対応は、高知大学岡本達哉氏、高知県立牧野植物園スタッフおよび高知大学理工学部の学生の皆さんに多大なるお力添えをいただきました。

本大会では、3月7日（金）の評議員会・編集員会を市内中心部にある高知市文化プラザかるぽーとで、研究発表やポスター発表を高知大学朝倉キャンパス共通教育棟で開催しました。高知大学までは宿泊施設が集中している市内中心部からJR鉄道と路面電車とでん交通での移動となり、本数が限られていることから、アクセス面ではご不便をお掛けしました。また、ポスター会場が狭く、時間内に十分に説明を聞くことができなかつたとのお声がありました。皆さんにはご不便をお掛けしました。口頭発表、休憩スペースやランチョンセミナー会場は、スペースに余裕が十分にない中で、皆さんにご配慮いただき座席が確保できましたこと、お礼申し上げます。さらに会場では、岐阜大学で2024年12月12日（木）～25日（水）に開催された企画展「日本の植物誌＆レッドデータブック」巡回展を開催し、公開シンポジウムとリンクした展示となり、多くの方にご覧いただくことができました。ご準備いただいた岐阜大学須山知香氏をはじめ研究室の皆さんに、お礼申し上げます。

4) 研究発表、公開シンポジウムとランチョンセミナー

研究発表の初日午前中に公開シンポジウムを開催したことにより、研究発表のうち発表賞の評価対象となる口頭発表が二日目の午前中いっぱいおこなわれました。その結果、大会発表賞の受賞者選考は、二日目のお昼休みに実施することとなり、選考委員の皆さんにはご負担をおかけすることになりました。その時間を確保する目的もあり、二日目のお昼休みにランチョンセミナーを実施し、多くの方にご参加いただき、活発な議論をする機会となりました。

口頭発表の進行では、本大会においても持ち時間の15分ではなく、14分30秒で終鈴を鳴らしました。マイクの電池切れが早く、たびたび演者の方にご迷惑をお掛けすることがありましたが、大きなトラブルはなく、概ねスケジュール通りに進行することができました。これもひとえに座長の皆様によって活発な議論を促進させながら、適切に進行をしてくださったおかげです。座長を引き受けくださった先生方には、心より感謝申し上げます。

5) 懇親会

予想を超える186名の方にご参加いただきました。1992年に高知で開催した大会（旧日本植物分類学会第22回高知大会）での出口博則氏（当時高知大学）の印象深い発言「懇親会を制すものは学会を制す」を引用した日本植物分類学会永益英敏会長のご挨拶に続き、高知大学受田浩之学長からご挨拶をいただき、会場は終始にぎやかな交流の場となりました。会場となった土佐御苑には、「県外からのお客様に高知らしいもの」、「とにかく皆さんにお腹いっぱいになるように」とお願いしたうち、後者は十分に満たされたのではないかと思っております。また、高知にあるすべての蔵元、19の酒造からの日本酒を用意して味わっていただきました。会場の熱気にアナウンスが聞き取りづらいほど、活気に満ちた会となりました。

6) 課題等

開催日程については、実行委員会で協議して発表日程を3日間とし、4日間の発表日程となった前回の仙台大会から従来の大会日程に戻しました。口頭発表演題数はほぼ予想していた数となりましたが、口頭またはポスター発表のどちらでもよいを選択してくださった方には、ポスター発表をお願いしました。ご協力ありがとうございます。他方、ポスター発表数が大幅に前年度を上回る発表数となり、とくに発表賞対象者のポスター会場がたいへん混雑しました。前回の仙台大会のように、発表賞と一般で入替制をとるなどの工夫や、ポスター発表後の会場でミキサーを実施するなど、時間とスペースに余裕をもたせることが必要であったかもしません。ポスターパネルは確保できたものの、会場利用時間と施設利用料の都合上、終了時間をこれ以上遅くできなかったこと、二部屋をポスター会場として利用できなかったことなどがありました。参加者が200名を超える大会の運営において、それぞれの事情があると思われますが、次回以降の運営の際に、参考として議論していただければ幸いです。

会場までのアクセスについては、バスを利用してピストン輸送することを想定していましたが、物理的にバスが借りられない（インバウンド需要、働き方改革による運転手不足）など、社会情勢の変化があります。また、物価の高騰は避けられず印刷費や懇親会費の値上がり、国立大学法人の施設利用料（教室使用料の減免措置等無し）の支払いなどがあり、本大会は高知県コンベンション協会の助成金により運営できましたが、大会会費、懇親会費や要旨集代などの据え置きは、今後は厳しいのではないかと考えられます。

なお、日本植物分類学会第24回大会（高知）ホームページは、2025年9月まで公開し、以降は閉鎖予定です。プログラムのみ高知県立牧野植物園ホームページにて継続して掲載する予定ですが、本大会に参加された方でPDF版要旨集を必要とされている方は、それまでにダウンロードをお願い申し上げます。なお、ダウンロードにはパスワードが必要です（参加申し込みをされた方には、2025年3月1日付けメールにて通知しています）。当日参加の方でご入り用の場合には、jsps_kochi24@makino.or.jpまでご連絡ください。

7) おわりに

大会準備ならびに会期中には、さまざまな問題や至らぬ点があったことと存じます。ご参加の皆さんにはご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。それにもかかわらず、皆さまからのあたたかいお言葉、励ましをいただき、また、たくさんのお問い合わせをいただきました。ありがとうございます。そして、大会が盛会に終わりましたのは、これもひとえに参加していただいた皆さまのご協力とご支援の賜物と、実行委員会一同、心よりお礼を申し上げます。

2025年度大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 西田佐知子

日本植物分類学会第24回大会において優れた研究発表を行った若手研究者に授与する大会発表賞は、エントリー総数65名（口頭発表24名、ポスター発表41名）のうち、以下の8名に決まりました。

口頭発表賞（大会プログラム掲載順）

OE20 増田和俊（京大・院・人環）

「小笠原諸島に固有なムラサキシキブ属3種の起源と過去の集団動態」

OE21 甲田龍太郎（東大・院・総合文化）

「ツガザクラ属の寒冷地系統における分岐プロセスの検証」

OE22 高橋弥生（お茶大・院・ライフサイエンス）

「葉緑体ゲノムおよび核ゲノムワイドSNP解析によるクロモジ類の実態と系統進化の解明」



ポスター発表賞（大会プログラム掲載順）

発表賞受賞者

PE14 吉田涼香（横国大・院・学環）「多様な性表現を示す日本産シライトソウ属の系統進化」

PE23 吉田かなみ（お茶大・理）「本州中部と北海道で隔離分布する冷温帯湿地性植物カラフトイバラの系統地理的歴史」

PE31 張珪嫣（名大・環境）「ツリフネソウ属植物における繁殖干渉のメカニズム」

PE37 菅田季沙（東北大・理）「広義ハマウドにおける系統地理学的解析と種子散布能力の集団間比較」

PE40 社川武徳（九大・システム生命）「ブナ科が示す受精遅延形質の進化史を紐解く」

発表賞にエントリーできるのは、パーマネントポストに就いていない学会員で、筆頭発表者かつ演者です。審査は通常、学会長、評議員、そして昨年度の大会発表賞受賞者からなる選考委員によって行われ、「研究内容(5点)」と「プレゼンテーションのうまさ(ポスター発表はポスターそのものの視認性の良さとわかりやすさ(3点)」の2つの指標について合計8点満点で評点を行い、この評点の平均点をもとに委員の合議によって受賞者を決定します。今回の審査は14名の選考委員で行いました。

今年も、ほとんどの発表が力のこもった甲乙つけがたいものでした。ただ、研究テーマが多岐に渡り、研究方法・発表技術ともに腕が上がる中、高得点を得た発表の多くは、研究背景や意義をわかりやすく示すとともに、目的に合った研究を苦労をいとわず敢行したことがアピールできているものだったように思います。

受賞された方、おめでとうございます。受賞されなかった方も来年以降、より進んだ研究成果とともに、受賞を目指し再チャレンジしてほしいものです。選考には委員の方をはじめ、大会準備委員会に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

なお、発表賞へたくさんの方がエントリーしてくださるのはとてもありがたいことですが、それに伴ってプログラム構成や審査員への負担が過大になっている問題があります。そのため次回の大会では、口頭発表については先着順によるエントリー数の制限や、ポスター発表については事前審査制なども検討しています。ですので、今後のニュースレターに掲載される大会に関するアナウンスに注意してください。それぞれの研究の節目になるような充実した発表をお待ちしています。

受賞者喜びの声

OE20 増田和俊 「小笠原諸島に固有なムラサキシキブ属 3種の起源と過去の集団動態」

京都大学人間・環境学研究科の増田和俊です（現所属：東京大学理学系研究科）。この度は口頭発表賞に選んでいただき大変光栄に存じます。今回私たちが研究対象にしたのは、日本の代表的な海洋島である小笠原諸島に固有のムラサキシキブ属3種です。これらの固有種は狭小な島内で放散的に種分化している、雌雄異株化しているといった、大陸の近縁種には見られない特徴を有していることから、植物の進化や種分化を研究するのに適した分類群です。しかし、その祖先がいつ・どこから小笠原諸島にやってきたのかについては分かっていませんでした。そこで本研究で分子系統解析を行ったところ、小笠原諸島固有種の祖先は東アジアに起源し、日本在来種であるムラサキシキブやヤブムラサキと近縁であること、小笠原諸島にはおよそ第四紀初期に移入してきたことが示唆されました。

最後に本研究にご協力いただいた皆様や大会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



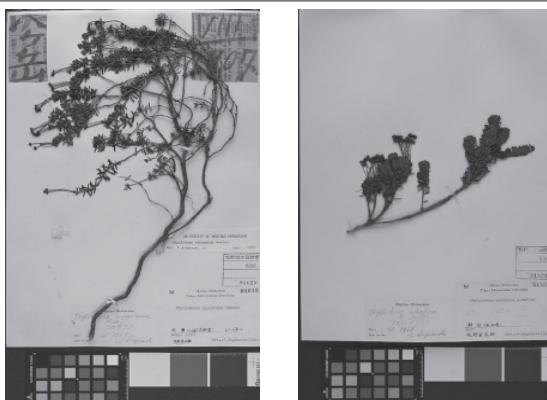
オオバシマムラサキ



調査中の写真

OE21 甲田龍太郎 「ツガザクラ属の寒冷地系統における分岐プロセスの検証」

東京大学の甲田龍太郎です。この度は口頭発表賞をいただき、誠にありがとうございます。私の研究は「常に変化する地球環境において生物多様性がなぜ、どのようにして生まれたのか？」という問いを基に、気候変動に関連した適応進化を高緯度地域に生育する植物を用いて探究しています。今回の学会発表では、ツガザクラ属の高緯度系統が中緯度系統から派生したという検証結果を報告いたしました。この知見は、高緯度地域の環境特性に対する適応進化のメカニズムを明らかにするための重要な第一歩となります。今後は形質転換実験などを通じて、さらに研究を進めていきたいと考えています。来年の植物分類学会でも、より良い発表ができるよう、引き続き精進してまいります。最後になりますが、日頃からご指導いただいている池田啓先生に感謝の意を表し、喜びの声とさせていただきます。



牧野富太郎博士が採集した
ツガザクラ（左）とアオノツガザクラ（右）
(牧野標本館所蔵)

OE22 高橋弥生「葉緑体ゲノムおよび核ゲノムワイド SNP 解析によるクロモジ類の実態と系統進化の解明」

お茶の水女子大学の高橋弥生です。この度は口頭発表賞をいただき、誠にありがとうございます。クロモジ類は形態が似通っており、区別の難しいグループとして知られていました。私自身、野外調査や標本調査を重ねるまでは5種（変種）を完璧には区別できていませんでした。今回発表した葉緑体ゲノムとゲノムワイド SNPs を用いた遺伝解析の結果から、クロモジ類はクロモジ、オオバクロモジクレードとケクロモジ、ウスゲクロモジ、ヒメクロモジクレードに大きく分かれ、オオバ以外は別種レベルで分化していることが明らかになりました。クロモジが分布すると考えられていた東北地方や中国地方のサンプルが全てオオバ系統であったことは驚きました。今後は、交雑の実態や形態との関係性などを明らかにしていこうと考えています。本研究を遂行するにあたり、多くの方々にサンプルの提供およびご助言をいただきました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



左 ケクロモジ @ 福岡
右 調査中の写真 @ 熊本

PE14 吉田涼香「多様な性表現を示す日本産シライトイソウ属の系統進化」

横浜国立大学の吉田涼香です。この度はポスター発表賞を頂戴し、大変光栄に思っております。誠にありがとうございます。シライトイソウに初めて出会った時は、白く可憐な姿とどこか神秘的な雰囲気に強く心惹かれました。全国各地のシライトイソウ属を観察、採集するにあたり、各分類群における葉の質感や花被片の長さ、色彩など、実物を詳細に見ることで形質の多様性に気づくことができました。今回、チャボシライトイソウが地理的に近いシライトイソウから平行進化した可能性と雌雄異株から性転換への性表現シフトが生じたことが示唆されました。これらの成果を通じて、今後のシライトイソウ研究の展開に大きな期待を抱いております。

本研究の遂行にあたり、共同研究者の皆様には、サンプリングや解析など多岐にわたり多大なるご助力を賜りました。また、多くの方々より貴重なサンプルやお写真をご提供いただきました。この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。



左 シライトイソウと
右 チャボシシライトイソウ
(池田哲朗氏撮影)



キヒメシライトイソウを観察中

PE23 吉田かなみ 「本州中部と北海道で隔離分布する冷温帯湿地性植物カラフトイバラの系統地理的歴史」

お茶の水女子大学の吉田かなみと申します。このたびはポスター発表賞という栄えある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。私は「本州中部と北海道で隔離分布する冷温帯湿地性植物カラフトイバラの系統地理的歴史の解明」をテーマに研究を行ってまいりました。今回の研究では、バラ科特有のDNA抽出の難しさ、データの解析の複雑さ故に壁にぶつかることが多くありました。そうした中でこのような評価をいただけたのは、ひとえに共同研究者の皆様、そして岩崎先生をはじめとする研究室の皆様のご指導とご支援のおかげです。この場をお借りして心より御礼申し上げます。今後は追加のサンプルを用いるとともに、これまでの解析を発展させた手法を取り入れ、カラフトイバラがどのように集団を維持してきたのか、その全体像の解明を目指してまいります。また、一研究者としての自覚を持ち、より一層研鑽を重ねていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



カラフトイバラ



調査の様子

PE31 張砾鳩 「ツリフネソウ属植物における繁殖干渉のメカニズム」

名古屋大学環境学研究科の張砾鳩です。この度はポスター発表賞をいただき、大変光栄です。

繁殖干渉とは、繁殖の過程においてある種が他種に「まちがって」悪影響を与えることで、適応度を低下させる現象です。私の研究は、ツリフネソウ属植物における繁殖干渉のメカニズムを探ることを目的としています。豊田市や安曇野市および名古屋大学野外観察園で調査を行い、同種および異種授粉実験を通じて、蛍光顕微鏡で花粉管の伸長を観察しました。その結果、異種花粉管も胚珠に到達し、同種花粉との受精機会を奪って結実率を低下させることが確認されました。また、花粉管が胚珠の手前で「蛇行」したり、柱頭付近で「迷走」する新現象を発見し、これらが繁殖干渉の重要な要因である可能性が示唆されました。今後はそのメカニズムの解明が課題です。

最後に、ご指導いただいた西田佐知子先生、共同研究者の金岡雅浩先生をはじめ、多くの方々に深く感謝申し上げます。



研究対象の写真



調査の様子

PE37 菅田季沙 「広義ハマウドにおける系統地理学的解析と種子散布能力の集団間比較」

東北大大学の菅田季沙です。この度はポスター発表賞をいただきありがとうございます。

海洋島の植物に共通の進化的傾向 (island syndrome) のひとつとして、種子散布能力が低下するという事象が知られています。本研究では海流と風による分散を行う広義ハマウドを対象とし、小笠原諸島固有のムニンハマウドの散布能力が他分類群と比較して低下しているか検証しました。結果、風散布能力の低下は認められず、海流散布能力については低下していることが示唆されました。海流散布は大陸・島嶼間の長距離散布、風散布は島嶼内での短・中距離散布に寄与すると考えられ、2つの異なる種子散布様式は散布距離に対応した異なる意義をもつ可能性があると考えられます。海洋島における海流・風散布の両方の特性をもつ植物を対象とした検証はこれまで行われなかっただめ、本研究により一定の成果を示すことができてよかったです。

本研究を行うにあたり、多くの方々にご指導・ご助力を賜りました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



ムニンハマウド



小笠原調査の写真

PE40 社川武徳「ブナ科が示す受精遅延形質の進化史を紐解く」

九州大学の社川武徳です。この度はポスター賞を賜り、誠にありがとうございます。

私は、ブナ科樹木に見られる「2年成」という結実様式について研究しています。2年成の種では、開花から結実までに1年以上を要し、受精も開花・受粉の翌年まで遅れることが知られていますが、そのメカニズムや適忯的意義には未解明な点が多く残されています。

本研究では、2年成の進化史を明らかにするため、文献調査および標本調査をしてブナ科樹木の結実様式を整理し、形質状態を復元する解析を行いました。標本調査では、国内外の植物標本庫が公開するデータベースを活用し、結実様式の情報が不足している種を重点的に検討しました。その結果、2年成は一度の進化イベントで獲得され、2年成から1年成への移行は複数の系統で独立に生じたことが示唆されました。

本研究の遂行にあたり、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



ベトナム調査の様子



標本画像

2025 年度 総会議事抄録

庶務幹事 高野温子

日時・場所：2025年3月9日（日）13：45～14：45

高知大学朝倉キャンパス

1. 総会に先立ち、永益英敏会長、および川原信夫大会会長から挨拶があった。
2. 逝去された学会員に対して黙祷が奉げられた。
3. 首藤光太郎会員が議長に選出された。
4. 報告事項

4.1. 会務報告

高野庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるため、議案審議の際に報告するとの説明があった。

4.2. 会員数について

永濱会計幹事より、会員数の説明がなされた。

4.3. 各委員会からの報告

絶滅危惧植物専門第一委員会および同第二委員会、植物データベース専門委員会、国際シンポジウム準備委員会、標本問題対応委員会、ABS 問題対応委員会、研究・普及推進委員会、学会賞選考委員会、国際命名規約邦訳委員会、論文賞選考委員会、大会発表賞選考委員会の各委員長またはその代理から活動報告 がなされた。

5. 審議事項

審議に先立って、現地会場での総会出席者数の確認を行い、庶務幹事より 101 名（のちに 107 名）であることが報告された。

5.1. 【第一号議案】2024 年度事業報告、ならびに 2024 年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が、高野庶務幹事と永濱会計幹事よりそれぞれ説明された。池谷祐幸、大村嘉人両監事により、会務および会計が適切であるとの監査結果が提示された。審議の結果、賛成 101 票、反対 0 票で出席者の賛成多数をもって承認された。

5.2. 【第二号議案】2025 年度事業計画、ならびに 2025 年度予算案

高野庶務幹事と永濱会計幹事より本年度の事業計画と予算案の説明があった（ニュースレター 96 号に掲載のとおり）。審議の結果、賛成 107 票、反対 0 票で出席者の賛成多数をもって承認された。

5.3. 【第三号議案】次期監事の選任について

永益会長より、次期監事として池谷祐幸会員、井上侑哉会員を推薦することが提案され、賛成多数をもって承認された。

5.4. 【第四号議案】名誉会員の推薦について

永益会長より、本会在籍期間が 50 年と確認された上野 雄規会員、岡田 博会員、小倉洋志会員、佐橋 紀男会員の 4 名が名誉会員に推薦され、賛成多数をもって承認された。

6. その他

6.1. 第 25 回大会開催地について

次の第 25 回大会について、熊本にて開催されることが永益会長より告知され、副島顕子次回大会会長より挨拶があった。

6.2. 野外研修会について

根本担当役員に代わり、鈴木旧担当役員から本年 11 月 8、9 日に鳥取県立博物館 清末幸久氏の協力を得て鳥取県内で開催されることが告知された。

2025 年度事業計画および予算

庶務幹事 高野温子

ニュースレター 96 号（前号）にて掲載した 2025 年度事業計画案、および予算案は、総会において修正ではなく、そのまま承認されました。変更がないため本号での再掲は割愛いたします。

お知らせ

2025 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

野外研修会担当 根本秀一

鳥取県立博物館にご協力いただき、11 月 8 日（土）に鳥取市周辺で海浜植物と日本海要素の観察、11 月 9 日（日）に鳥取県立博物館の見学を行います。申し込み方法、詳細な行程は、追ってメーリングリストおよび次号ニュースレターでお知らせします。会費は 5,000 円程度を予定しております。

来年度以降の候補地を募集中です。引き続き、各地の植物同好会などと共同で実施することも考えています。よく調査されたフィールドでも、多くの目で見ることで、新たな発見や学びがあるかもしれません。ご希望の場合は、根本（nemoto @ fukushima.email.ne.jp）までお問い合わせください。まずはご相談だけでもかまいません。

日本植物分類学会第 25 回大会（熊本）のお知らせ

第 25 回大会会長 副島顕子

日本植物分類学会第 25 回大会を下記の通り開催いたします。大会および参加申し込みに関する詳細は、大会ホームページならびに 2025 年 11 月号のニュースレターでお知らせいたします。

【会場】

熊本大学黒髪南キャンパス 〒 860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号

【日程】

2026 年 3 月 5 日（木）：各種委員会・評議委員会
3 月 6 日（金）：研究発表
3 月 7 日（土）：研究発表・総会・受賞講演・懇親会
3 月 8 日（日）：研究発表・公開シンポジウム

【ホームページ】

現在準備中。アクセス可能になり次第、日本植物分類学会のホームページ等でご連絡いたします。

【問い合わせ先】

日本植物分類学会第 25 回大会（熊本） 大会実行委員長 藤井紀行
〒 860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号 熊本大学大学院先端科学研究所（理）
E-mail: nfujii@kumamoto-u.ac.jp

環境省第 5 次レッドリスト・レッドデータブック（植物・菌類）が公表されました

絶滅危惧植物専門第一委員会委員長 藤井伸二

本年 3 月 18 日に第 5 次レッドリストと 2025 年版レッドデータブック（植物・菌類）が環境省から公表されました。このうち維管束植物版は全国 47 都道府県の現地調査員の方から提供をいただいた調査資料を基に、絶滅危惧植物専門第一委員会がオブザーバー委員の奥山雄大氏と末次健司氏のお二人の協力を得て評価の原案を作成しました。調査と評価には 8 年の歳月を要しましたが、皆様のご協力のおかげをもちまして完成したレッドデータブックです。前文と掲載種一覧リスト（2,222 分類群）で 100 ページあまり、各種の解説は 6,300 ページを超えます。

2025 年版レッドデータブックは下記の URL から 3 分割された PDF ファイルをダウンロードできます。なお、今回は紙媒体での印刷・発行はされません。

URL : https://www.env.go.jp/press/press_04578.html

今回の改訂調査にご協力頂きました皆様のご芳名は環境省 RDB の前文にも掲載されていますが、以下にあらためて掲載させて頂くことで感謝の意を表したいと思います。なお、私どものミスで環境省 RDB の協力者名簿から執筆協力者のご芳名が抜け落ちていました。ここに掲載させて頂くとともに、深くお詫び申し上げます。

調査協力者（敬称略）

愛知植物の会、青木 修一、青木 雅夫、赤井 伸江、赤木 康、安藝 昌彦、秋丸 浩毅、秋山 幸也、秋山 敬典、浅井 幹夫、浅井 元朗、浅岡 賢一、浅川 幸子、浅見 卓、安嶋 隆、芦谷 美奈子、東 義詔、跡部 浩一、阿部 篤志、阿部 利夫、阿部 裕紀子、天野 誠、天野 安夫、安見 珠子、安藤 志郎、安東 愛美、安藤 義範、五百川 裕、伊賀 和子、五十嵐 彰、五十嵐 博、猪狩 資子、池内 伸、池田 十三生（故人）、池田 博、生駒 敬、石川 真一、石川 慎吾、石川 美智子、石澤 岩央、石澤 進（故人）、石沢 成実、石須 秀知、石田 賢也、石田 未基、石田 祐子、石貴 泰三、石橋 正行、石間 妙子、泉 治夫、磯田 進、井田 秀行、市川 正人、一澤 麻子、市原 通雄、井手 義信、伊藤 彩乃、伊藤 幸子、伊藤 静夫、伊藤 隆之（故人）、伊東 拓朗、稻垣 典年、井上 喜美子、井上 茂、井上 千鳥、井上 哲也、井上 伸之、猪上 信義、井上 英幸、井上 雅仁、井上 康彦、猪俣

健之介、茨木 靖、岩切 勝彦、岩瀬 文人、岩田 豊太郎、岩槻 秀明、岩村 政浩、岩本 浩二、植田 周平、上田 洋史、上野 勝典、上野 雄規、上野 由貴枝、上村 恭子、魚澤 伊佐子、宇賀 裕生、薄井 創太、薄葉 満、宇田 英一、内野 秀重、内山 治男、宇都宮 靖博、梅原 徹、江頭 一政、江口 秋美、榎 弘實（故人）、榎本 敬、榎本 博之、恵美 泰子、遠藤 優年、遠藤 雄一、大上 幹彦（故人）、大越 秀樹、太田 道人、大平 満、大高 茂範、大竹 邦暉、大塚 一紀、大塚 孝一、大西 憲太郎、大西 亘、大野 清志、大野 美香、大畠 弘、大原 隆明、大日向 貞英、大洞 浩一（故人）、大森 威宏、大森 文雄、大屋 哲、大類 貞夫、岡崎 綾子、岡崎 純子、岡田 祐哉、岡山大学資源植物科学研究所、小川 信正、小川 誠、沖田 貞敏、荻山 恒弘、小倉 洋志、小澤 潤、押岡 茂紀、小代 連枝、尾関 雅章、織田 二郎、小田 賢、乙幡 康之、鬼丸 和幸、小野 ふみゑ、尾上 聖子、小幡 和男、尾鼻 陽介、尾本 靖高、小山田 智彰、折笠 常弘、御宮知伸彦、甲斐 数美、垣内 信一、葛西 英明、片野 光一、片野 伸雄、片山 千賀志、加藤 沙織、加藤 ゆき恵、角田 まさ子、神奈川県植物誌調査会、金子 洋平、金光 浩伸、鎧木 純一、上赤 博文、神川 建彦、上條 隆志、神山 隆之、刈谷 寿（故人）、仮屋崎 忠、狩山 俊悟、川上 美保子、川口 大朗、川住 清貴、川田 如久、川竹 守、川内野 善治、川浪 誠、河野 耕三、川端 一弘、川原 勝征、川村 恒介（故人）、河室 信義、木内 静子、菊地 卓弥、菊池 健、菊間 泰汎、北川 博正、木下 覚、木村 宏（故人）、木村 雅之、木村 陽子、木村 和喜夫、清末 幸久、草加 伸吾、楠瀬 雄三、沓沢 周弘、國井 秀伸、国京 潤一、國永 知裕、久保 純史郎、熊谷 信孝、久米 修、倉敷市立自然史博物館、倉俣 武男、栗山 由佳子、黒岩 展子、黒岩 宣仁、黒川 康子、黒木秀一、黒崎 史平、黒田 明穂、桑田 健吾、源内 伸秀、小池 周司、小池 英毅、鴻上 泰、郷原 匠史、古賀 常司、古賀 保匡、小島 邦弘、五所野尾 優、小玉 愛子、児玉 勉、後藤 雅文、後藤 美和子、小西 民人、古場田 良次（故人）、小林 健人、小林 敏男、小林 禧樹、小林 則夫、小林 正明、駒井 千恵子、駒倉 政夫、小松澤 靖、小峯 洋一、権藤 啓子、近藤 芳子（故人）、斎藤 俊治、斎藤 政美、斎藤 弥生、齋藤 佑樹、斎藤 芳夫、齋藤 若菜、酒井 恵子、酒井 藤夫、酒井 泰一、坂口 竣弥、坂下 諭、坂田 成孝、坂本 彰、阪本 英樹、佐久間 大輔、櫻井 幸枝、櫻井 信夫、桜井 八州彦、櫻木 成二、櫻庭 春彦、櫻庭 三恵、笛川 通博、篠笥 公隆、佐々木 純一、佐々木 菜摘佐々木 博昭、佐治 達三、佐治 まゆみ、佐田 博子、佐竹 恵一、咲花 文隆、佐藤 明、佐藤 謙、佐藤 健司、佐藤 滋子、佐藤 省三、佐藤 孝彦、佐藤 民雄、佐藤 千芳、佐藤 広行、佐藤 雅彦、佐藤 美紀雄、佐藤 三千代佐藤 光雄、佐藤 康、沢江 宏、沢江 宏、汐田 達哉、志鎌 節郎、七黒 勝二郎、篠原 弘一、篠原 渉、柴田 一樹、柴田 貴行、嶋崎 太郎、清水 修、清水 敬司、清水 淳子、清水 英彦、下田 路子（故人）、首藤 光太郎、首藤 房子、首藤 昌子、莊司 健、白井 伸和、城坂 結実、信太 富夫、神代植物公園植物多様性センター、末廣 喜代一、菅 昭和、菅沼 住子、菅沼 孝之、杉浦 まゆみ、杉野 孝雄、杉山 多喜子、鈴木 武、鈴木 曉（故人）、鈴木 まほろ、須田 隆一、須藤 秋夫、須山 知香、瀬井 純雄、清正 斎、瀬尾 明弘、関 太郎、関田 泰子、瀬口 三樹弘、薛 孝夫、瀬戸 剛、世羅 徹哉、芹沢 俊介、園部 力雄、平 誠、高家 和彦、高木 政喜、高木 真人、高木 美奈子、高島 路久、高嶋 八千代、高杉 茂雄、高田 顺、高田 みちよ、田金 秀一郎、高野 温子、高野 憲太郎、高野 祐晃、高橋 晃、高橋 信弥、高橋 英樹、高橋 弘、高橋 眞起、高橋 和吉、高原 郁子、高原 豊、高松 隆吉、高山 浩司、滝口 政彦、瀧崎 吉伸、瀧澤 玲子、武内 一恵、竹内 清治、竹内 佐枝子、竹内 紀夫、竹内 久宜、武田 茂男、竹田 正博、竹原 明秀、竹村 健一、田代 俊夫、田城 松幸（故人）、田城 光子、多田 雅充、楯 誠治、田中 徳久、田中 正人、田 中 光彦、田中 實、田邊 由紀、田畠 伊織、田畠 満大、田丸 豊生、田村 淳、田村 晋、田屋 裕樹、俵 京子、丹後 亜興、千々布 義朗、千葉 悟志、月田 禮次郎、辻 寛文、辻井 要介、辻野 亮、津島 辰雄、堤 久、常木 静河、坪田 博美、寺峰 孜、寺村 朋輝、寺森 正行、藤内 広三、時岡 昭人、得居 修（故人）、登坂 裕一、土肥 健司、戸町 チヅル、富沢 由美子、富永 明良、富永 藤泰、友坂 豊（故人）、土門 尚三、内藤 麻子、内藤 宇佐彦、中 優、長井 幸雄、永井 要明、長池 卓男、仲川 邦広、中川 清太郎、中川 博之、中川 幸夫、中込 司郎、永坂 正夫、中崎 保洋、長島 永幸、中島 義則、中田 政司、中西 弘樹、中野 真理子、中平 勝也、中平 謙一、永松 大、長棟 光祐、中村 彰夫、中村 香代子、中村 剛、中村 幸世、中村 千賀、中山 刑、中山 博子、成田 愛治、成迫 平五郎、成島 明、新沼 好一、西井 武秀、西岡 登、西田 謙二、西野 友子、西村 明洋、新田 紀敏、二瓶 重和、沼宮内 信之、根本 秀一、能見 三郎、野口 達也、野村 外喜子（故人）、蘿原 桂、橋越 清一、橋本 季正、蓮沼 憲二、長谷川 順一、長谷川 匡弘、長谷川 泰洋、花卉 隆晃、濱野 一郎、早川 宗志、林 二良（故人）、林 鈴以、早瀬 裕也、原 千代子、半田 俊彦、伴ノ内 珠喜、日朝 直樹、比嘉 基紀、東出 幸真、久江 信雄、久藤 広志、久本 洋子、姫野 諒太郎、兵頭 正治（故人）、平 恵子、平野 修生、平野 康美、平山 大輔、蛭間 啓、廣 達也、深瀬 元靖（故人）、深谷 治、福岡 豪、福岡 義洋、福田 良市、福永 一美、福原 達人、福原 宏、福松 東一、藤井 聖子、藤井 良造、藤尾 正博、藤岡 ユ力、藤川 和美、藤田 繁治、藤田 淳一、藤田 弘道、藤田 玲、藤富 信之、藤原文子、藤本 勝典、藤森 祥平、古池 博、古川 貞智子、星 直斗、星 義男、星山 耕一、細川 音治（故人）、細川 公子、細川 健太郎、細谷 治夫、堀江 健二、堀江 満、本多 郁夫、本多 丘人、本多 隆、本間 大貴、前崎 光生、前田 紗子、前田 雄一、牧 静枝、牧野 譲吾、眞崎 久、眞崎 博（故人）、眞柴 茂彦、増尾 宏枝、増田 和明、増田 栄人、松井 淳、松井 健一、松井 茂生、松井 千代子、松井 浩、松井 宏光、松井 雅之、松浦 雄三、松尾 美和子、松岡 成久（故人）、松田 貴子、松田 朋子、松永 和久（故人）、松村 雅文（故人）、松本 功、松本 淳、松本 忠博（故人）、松本 滿夫、真鍋 徹、曲渕 詩織、丸岡 道行、丸野 勝敏、丸山 健一郎、丸山 友一、三浦 勝美、三浦 憲人、三上 忠仁、三瓶 ゆりか、三島木 進、水野 重紀、三 谷 有幸、御手洗 望、光田 重幸、南 敦、南谷 忠志、箕浦 博之、蓑田 清隆、三宅 貞敏、宮崎 一夫、宮本 恵子、宮本

誠一郎、宮本 太、向 哲嗣、村田 章、村長 昭義（故人）、村松 正雄、持田 誠、望月 一二、本池 祐貴、元島 清人、森 幸子、森田 敬三、森田 奈菜、森田 秀一、森廣 信子、森本 範正、八板 美智夫、柳浦 正夫、矢口 末吉、矢島 民夫、谷 城 勝弘、安 昌美、安田 祥子、矢田貝 繁明、矢野 愛子、矢野 啓介、矢部 幸太、山口 和洋、山口 昌子、山崎 工、山 崎 俊哉、山崎 憲男、山崎 治行、山崎 真実、山路 武夫（故人）、山下 純、山下 俊之、山下 寿之、山下 大明、山下 裕、山下 博、山下 由美、山住 一郎、山田 一郎、山田 寛爾、山田 恒人、山田 利明、山中 直秋、山根 明、山根 文人、山ノ内 崇志、山室 一樹、山本 薫、山本 和彦、山本 航平、山本 斗志江、山本 伸子、山森 茂、山脇 和也、湯浅 保雄、湯澤 陽一、横川 昌史、横田 岳人、横山 正弘、横山 美穂、吉井 広始、吉川 誠、吉沢 敏江、吉田 一右、吉中 弘介、吉野 由紀夫（故人）、吉原 博司、米山 競一、依光 忠宏、林 蘇娟、若杉 集、若杉 孝生（故人）、若杉 美仁、我妻 尚広、若原 正博、脇 悠太、脇坂 良子、鷺尾 和行、和田 登志子、渡辺 定路、渡部 秀哉、渡辺 長敬、渡邊 将人、渡邊 祐紀

執筆協力者（敬称略）

伊東 拓朗、伊藤 元己、内田 晓友、奥山 雄大、佐藤 広行、首藤 光太郎、末次 健司、鈴木 浩司、田金 秀一郎、田村 実、内貴 章世、中西 弘樹、遊川 知久

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込
などは下記へご連絡ください。
〒 305 - 0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館 植物研究部
日本植物分類学会 永濱 藍（会計幹事）
Phone: 029-853-8972、Fax: 029-853-840
E-mail: kaikei@e-jspc.com
会 費：一般会員 7,000 円、学生会員 3,000 円、
団体会員 8,000 円
郵便振替口座番号：00120-9-41247
加入者名：日本植物分類学会
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

令和 7 (2025) 年 5 月 20 日印刷
令和 7 (2025) 年 5 月 25 日発行

編集兼 発行人 滋賀県草津市下物町 1091
滋賀県立琵琶湖博物館
大槻 達郎

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館植物研究部
日本植物分類学会

*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。